



令和5年12月22日

リチウムイオン電池搭載製品からの出火が過去最多 ～年末の大掃除、バッテリーの処分に注意！～

令和4年中、東京消防庁管内においてリチウムイオン電池を搭載した製品から出火した火災は過去最多の150件発生し、さらに令和5年は11月末時点で158件（速報値）発生しており、近年急激に増加しています。

製品別では33種類の製品から出火しており、特にモバイルバッテリー、スマートフォン、掃除機から多く発生しています。

出火要因をみると、使用者の明らかな誤使用（分解、衝撃、充電方法誤り等）により出火する火災の他に、製品の欠陥により製品から突然出火する火災も発生しています。

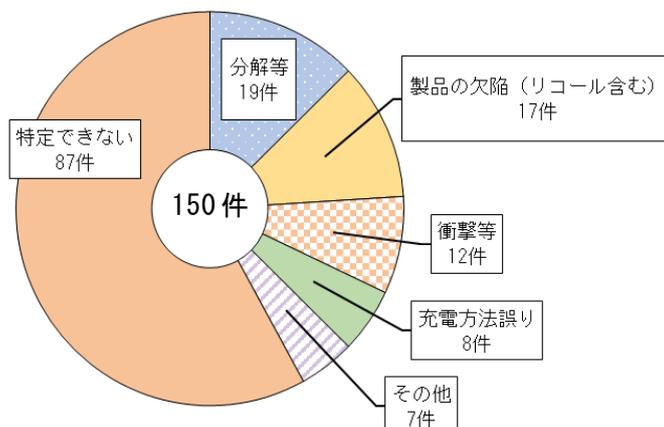
また、リチウムイオン電池搭載製品を処分する際に、誤ったごみの分別によりごみ収集車から出火する火災も増加しています。

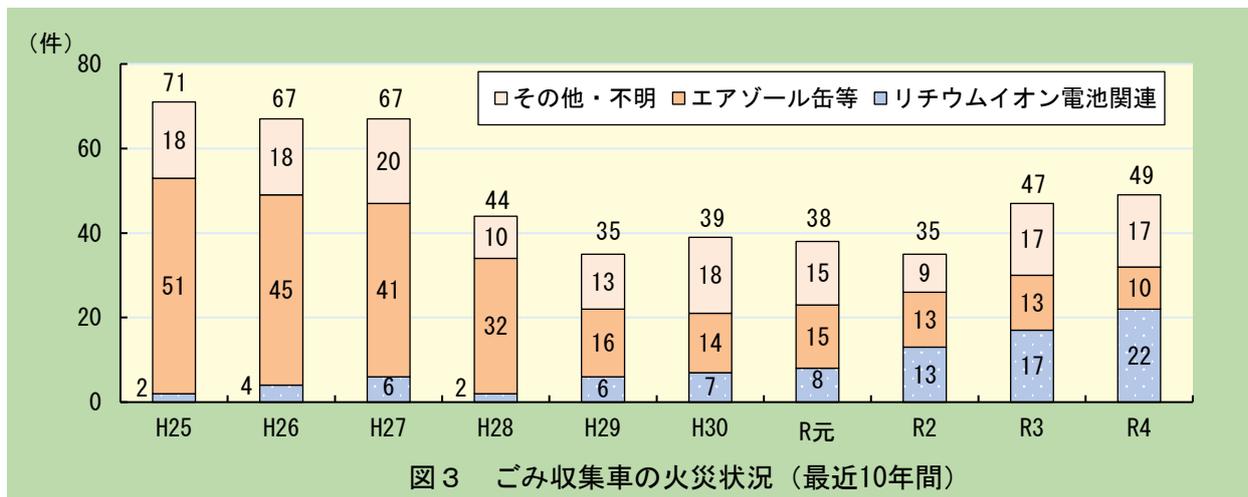


写真1 リチウムイオン電池の出火状況



写真2 火炎が噴出している状況





【火災を防ぐために】

- 1 使用する前に取扱説明書をよく確認する。
- 2 衝撃を与えないよう適切に取り扱い、むやみに分解しない。
- 3 製造メーカーが指定する充電器やバッテリーを使用する。
- 4 充電器の接続部が合致するからといって、充電電圧を確認せずに使用しない。
- 5 膨張、充電できない、バッテリーの減りが早くなった、充電中に熱くなるなどの異常がある場合は使用をやめ、製造メーカーや販売店に相談する。
- 6 製造メーカーの問合せ先の記載がない製品や販売店や製造メーカーの連絡先に連絡してもつながらない製品もあるので、製品を購入する際には慎重に検討する。
- 7 処分する際は、製品の取扱説明書をよく確認する。
- 8 不用品を処分する際は、地域のごみ回収方法をよく確認する。

【関係資料】

東京消防庁ホームページ（令和5年12月22日現在）

「誤ったごみの分別により火災が発生！」 「令和5年版 火災の実態 第3章6 電気設備機器」



問合せ先

（東京消防庁（代） 電話 3212-2111
 予防部調査課 内線 5065 5066
 広報課報道係 内線 2345~2350）

1 リチウムイオン電池の出火危険

リチウムイオン電池は、正極（プラス）と負極（マイナス）の間をリチウムイオンが移動することで繰り返し充電、放電できる電池のことで、二次電池の一つになります。この電池は、主に小型で大量の電力を必要とする製品（スマートフォン、コードレス掃除機、ノートパソコンなど）に使用され、他の二次電池（ニッケルカドミウム電池、ニッケル水素電池など）と比べて大容量、高出力、軽量という特徴があります。この電池は可燃性の有機溶剤の電解液を使用しているため、衝撃等により電池内部で短絡して出火する危険性があります。

2 リチウムイオン電池関連火災の状況

(1) 近年の火災発生状況

- 令和4年中は150件発生し、過去最多となっています。
- 発生した火災の約14%が部分焼以上の延焼火災に拡大しています。
- 死者は1名、負傷者は42名発生し、最近10年間で最多となっています。

表1 リチウムイオン電池関連火災状況（最近10年間）

年 別	火災発生件数							損害状況				
	合計	建物					車 両	そ の 他	焼 損 床 面 積 (m^2)	焼 損 表 面 積 (m^2)	死 者	負 傷 者
		小 計	全 焼	半 焼	部 分 焼	ぼ や						
25年	12	12	-	1	2	9	-	-	70	7	-	6
26年	19	18	-	-	3	15	-	1	11	6	-	6
27年	26	21	-	-	3	18	3	1	2	53	-	3
28年	55	48	-	-	6	42	2	2	77	40	-	22
29年	56	47	-	-	5	42	7	5	32	41	-	4
30年	82	69	-	1	4	64	6	7	74	40	-	10
元年	102	95	1	1	11	82	2	5	400	257	-	12
2年	104	93	-	2	11	80	5	6	200	195	-	22
3年	141	124	5	5	16	98	6	11	860	289	-	30
4年	150	124	4	-	17	103	10	16	513	109	1	42
5年 11月30日現在	158	140	1	1	23	115	3	15	808	120	-	14

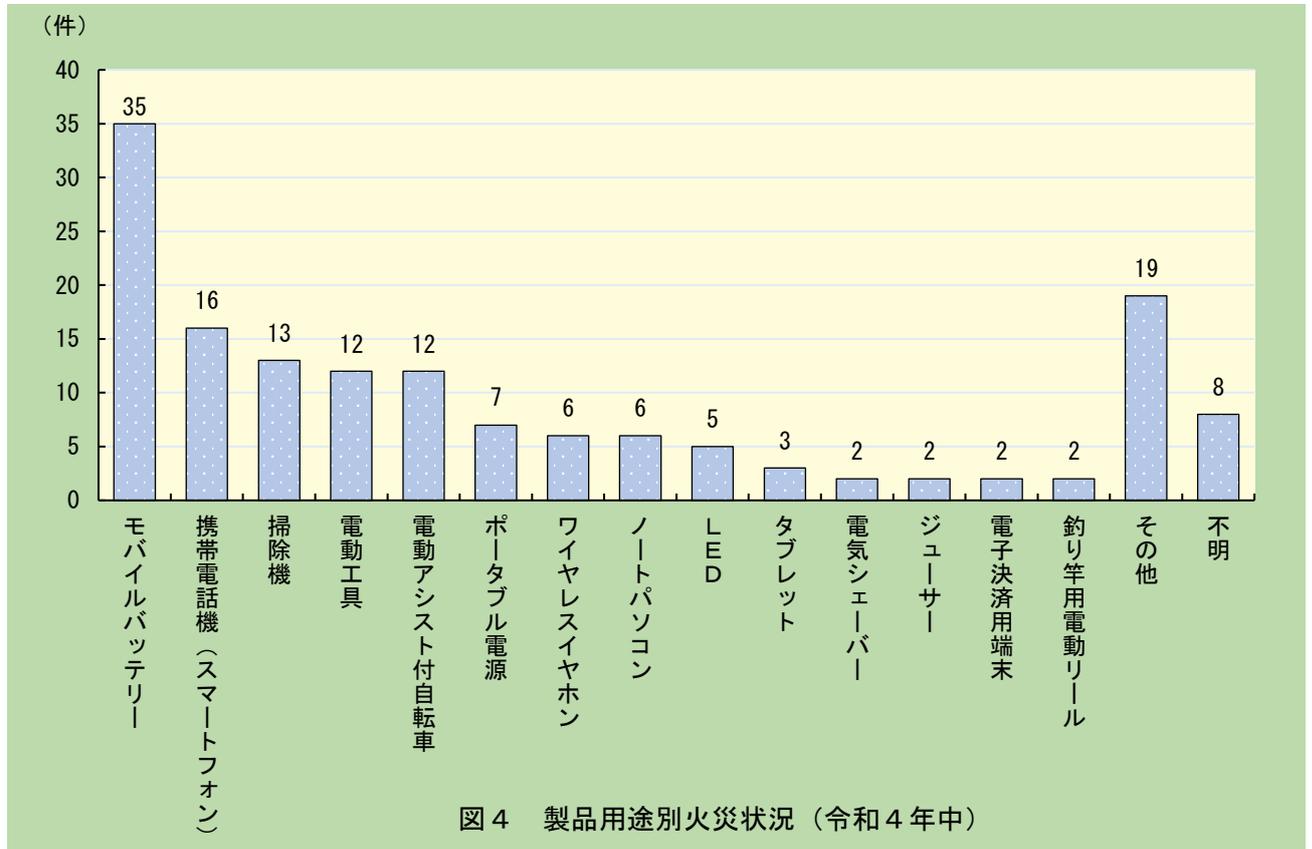
注1 リチウムイオン電池関連火災とは、リチウムイオン電池を搭載した製品（差込みプラグ及び器具コードを除く）から出火した火災をいう。

注2 リチウムイオン電池関連火災には、ごみ回収中のごみ収集車から出火した火災及びごみ処理関連施設（業態が一般廃棄物処理業及び産業廃棄物処理業）から出火した火災を除く。

注3 令和5年中の数値は令和5年11月30日現在の速報値。

(2) 製品用途別の火災状況

- モバイルバッテリーから出火した火災が最多で、次にスマートフォン、掃除機となっています。
- 令和4年中に出火した製品は少なくとも33種類あり、多種にわたっています。



※その他の内訳は、ヘアアイロン、電動ガンバッテリー、ラジコンバッテリー、送風機、スマートウォッチ、電動エアポンプ、電動ゴーカート、電動モップ、バランススクーター、高圧洗浄機、ルーター、防犯カメラ用モニター、加熱式たばこ、美顔器、バイク用バッテリー、自動車用バッテリー、電動キックボード、オーディオプレーヤー、カードリーダー（各1件）。

3 火災事例

事例1 「モバイルパソコンからバッテリーを取り外す際に出火した火災」

共同住宅の居住者が、モバイルパソコンのバッテリーが膨らんでいたため、バッテリーを工具で取り外そうとした際にバッテリーを損傷させたことでバッテリーセルが内部短絡し出火したものです。



写真3 モバイルパソコンの焼損状況



写真4 バッテリーセルの焼損状況

事例2 「非純正品のACアダプタに接続したバッテリーから出火した火災」

住宅の居室内で充電していた電動アシスト付自転車用バッテリーから出火したものです。居住者が純正品のACアダプタとは出力が異なるACアダプタを使用し、バッテリーを充電したことにより電氣的不具合が発生し、バッテリーセルが内部短絡し出火しました。



写真5 出火箇所の状況



写真6 バッテリーの焼損状況

事例3 「新築工事現場で充電中のバッテリーが出火した火災」

新築工事現場の建物内において作業で使用する電動工具のバッテリーを充電していたところ、何らかの要因でバッテリーセルが内部短絡し出火したものです。出火したバッテリーは、電動工具と同じメーカーの純正品ではなく、海外メーカーの非純正品バッテリーでした。

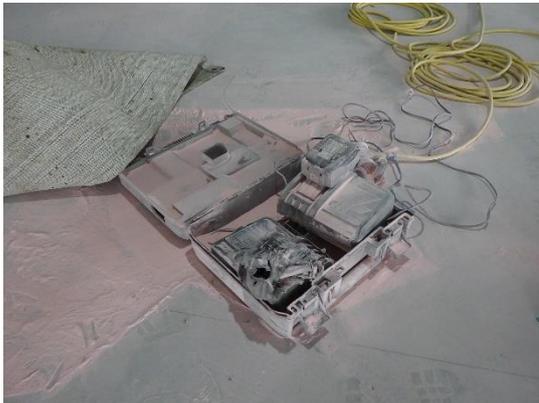


写真7 出火箇所の状況



写真8 バッテリーの焼損状況

事例4 「非純正品の充電器でバッテリーを充電中に火災」

事務所の倉庫内でビデオカメラ用のバッテリーを充電していたところ、何らかの要因でバッテリーセルが内部短絡し出火したものです。出火したバッテリーの充電に使用した充電器は、仕様上の専用の充電器ではありませんでした。



写真9 バッテリーの焼損状況
(防犯カメラ映像)



写真10 火炎が噴出している状況
(防犯カメラ映像)



写真11 バッテリーの焼損状況

事例5 「可燃ごみを収集中にごみ袋から出火した火災」

ごみ収集作業員がごみ袋を荷箱内に入れたところ「ボンッ」という音がして発煙したため、ごみ袋を車両後方に移動しました。ごみ袋から煙の量が多くなり、破裂音が鳴った後に炎が上がりました。

燃えたごみ袋には、ポータブル電源が入っており、内部のバッテリーが短絡して出火したものです。



写真12 ごみ袋から発煙している状況



写真13 ごみ袋の延焼状況